

since 1920

運輸新聞

E-mail inquiry@unyu.co.jp URL http://www.unyu.co.jp

発行所・運輸新聞株式会社
東京都荒川区西日暮里3-6-10
佐々木ビル3F 〒116-0013
TEL03-5685-0035
関西支社 大阪市中央区瓦町1-3-2
〒541-0048 TEL06-6209-3261
発行人・野口香織
火・金発行(祝日を除く)
3,600円/月(送料・税込)

2020年

5月15日(金)

第17301号



先端のニーズに応える技術力で

輸送社会の未来を**開く!**

日本トレクス株式会社

収束時期見通せない状況の中 物流各社、体質強化に注力

物流各社の2020年3月期決算が発表されているが、多くの企業は次期業績予想を保留にしておき、数値を示した企業もほとんどが減収減益と予想している。新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せないばかりか、経済低迷が長期化する懸念がある中、それでも次期(今年度)の事業戦略を決算短信で明記した企業もある。

アルプス物流は、米中貿易摩擦の長期化に加え、感染拡大がグローバルに影響し、厳しい経営環境となった。それでも電子部品物流は商品やマナーの変化に対応した最適生産や生販合理化が進んでいるとして、今後市場・商品に合わせた商品力の強化に取り組む姿勢を示した。消費物流でも、EC通販物流を強化するため、採用力や教育制度の強化、働き方改革を推進するとしている。

丸連運輸機関は、輸配送・パートナー企業と連携を強化し、市場・顧客ニーズに合わせたサービスメニューを展開するとしている。加えて事業継続のため、自治体や企業と連携したBCPネットワーク構築に努めることも付記している。

三井倉庫ホールディングスは、感染症による荷動きの低迷は9月末まで継続することを前提とし、事業間の機能見直し、事業別アクションプランは次の通り。

丸連は、第3次中期経営計画(2020~2022年度)を策定。10年後(2030年)の「ありたい姿」を見据えた課題を確認し、課題を克服するため、中計期間を飛躍に向けた準備期間とし、3力年を取り組むべき施策を具体的なアクションプランとして織り込んだ。事業別アクションプランは次の通り。

飛躍に向け準備を

丸連 2022年度中計 ベトナムでのM&Aも

非上場企業でも、感染症に伴う収入減を最小化するための取り組み、あるいは収束後の反転攻勢に向けた準備を着々と進める企業がある。岩手県盛岡市の倉庫会社である徳清倉庫は、3月頃からオンラインセミナーが主流になっている。

点に着目。「社員教育には最適な時期であり、社員全員に視座させて資質向上を目指す」とともに、「少ない社員数ながら、経営者と社員が一体となって、常に社会と顧客ニーズを何かを把握することに努めたい」と語っている。

事業体質の強化・エリア配達の最適化など危険物倉庫の新設、危険物扱い製品の拡大、自動車ローリーの充実、同社インフラを活用した近畿エリアでの2次基地構想、関西地区での危険物倉庫新設など。

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

環境変化でも成長を

住友倉庫 新中計がスタート

住友倉庫は12日、同社グループ10年後を見据えた長期ビジョンと新中期経営計画を発表した。

長期ビジョンと新中期経営計画策定の背景として、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大が国内外の経済情勢に与える影響など、今後の先行きは不透明な状況だが、「人手不足を背景としたコストの上昇、デジタル

トランスフォーメーションへの取り組み拡大およびESG(環境・社会・ガバナンス)に対する意識の高まりなど、近年のさまざまな変化は継続する」と考えて策定した。

「将来の事業環境がどのように変化しようとも、持続的な成長を実現しながら、事業を通じて社会に貢献する」としている。

長期ビジョンは「Moving Forward to 2030」をスローガンとして掲げ、顧客と社会に対して果たすべき①モノをつなぐ②世界をつなぐ③ヒトをつなぐ④時代をつなぐという4つのミッションに取り組み、モノをつなぐにおいて

は、物流の結節点である倉庫と港湾を主軸に、さらに信頼性の高い物流サービスを提供。物流業以外の業種との連携を積極的に導入・活用することで、各種の変化に迅速に対応しながら、物流における新たな価値を創造していく。

また、20年度から3力年の中期経営計画は、顧客の目線に立った施策に取り組みとともに、事業基盤を強化化するため、スピード感をもって収益力の低下している事業の構造改革を進める。

計画最終年度の売上高は2100億円、営業利益は120億円を目指す。事業

日本通運は、2019年度の内海上輸送サービスおよび鉄港コンテナ取扱実績をまとめた。

内航海上輸送サービスの実績(12月換算個数)は34万1422個(前年度比0.49%増)。内訳は12万1000個。内訳は12万1000個。内訳は12万1000個。

中の配船変更(台風欠航のカバー運航)や部材を中心に取り込みを図ったが、年明け以降に製紙会社の紙生産停止の影響を受けた。

今年度は、現状新型コロナウイルスの影響は大きくはないが、緊急事態宣言の長期化と原油価格下落による国内物流への影響が懸念される。

今年度は、ネットワーク事業本部間の連携や共同営業による新規貨物の獲得、さまざまな生産性向上施策により取扱数量と利益確保に努める。

今年度は、ネットワーク事業本部間の連携や共同営業による新規貨物の獲得、さまざまな生産性向上施策により取扱数量と利益確保に努める。

今年度は、ネットワーク事業本部間の連携や共同営業による新規貨物の獲得、さまざまな生産性向上施策により取扱数量と利益確保に努める。

今年度は、ネットワーク事業本部間の連携や共同営業による新規貨物の獲得、さまざまな生産性向上施策により取扱数量と利益確保に努める。

今年度は、ネットワーク事業本部間の連携や共同営業による新規貨物の獲得、さまざまな生産性向上施策により取扱数量と利益確保に努める。

今年度は、ネットワーク事業本部間の連携や共同営業による新規貨物の獲得、さまざまな生産性向上施策により取扱数量と利益確保に努める。

ROORO船貨物取扱

生産性向上施策推進

RO船貨物の取扱を進め、目標個数を34万7964個(2%増)に設定した。

RO船貨物の取扱を進め、目標個数を34万7964個(2%増)に設定した。

RO船貨物の取扱を進め、目標個数を34万7964個(2%増)に設定した。

RO船貨物の取扱を進め、目標個数を34万7964個(2%増)に設定した。

RO船貨物の取扱を進め、目標個数を34万7964個(2%増)に設定した。

RO船貨物の取扱を進め、目標個数を34万7964個(2%増)に設定した。

RO船貨物の取扱を進め、目標個数を34万7964個(2%増)に設定した。

RO船貨物の取扱を進め、目標個数を34万7964個(2%増)に設定した。

RO船貨物の取扱を進め、目標個数を34万7964個(2%増)に設定した。



桑原 豊氏

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役

丸連は、11日開催の取締役会で桑原豊氏(現JXTGエネルギー社長)の代表取締役社長就任を内定した。荒木康次代表取締役社長は相談役